| 科科授 開 射型 123えル 評 評 学教 概 授 注授 2 授 1 1 2 3 3 2 2 3 3 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3  | として身には<br>りたのとして身には<br>りたのでがける。<br>シクク<br>幸目標項目<br>等<br>ち・方法   | )<br>後期<br>『本村 昌己,『<br>の<br>『本野の向」<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学ののの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学ののの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学ののの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学ののの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学ののの内<br>「大学のの内<br>「大学ののの内<br>「大学ののの内<br>「大学ののの内<br>「大学ののの内<br>「大学ののの内<br>「大学ののの内<br>「大学ののの<br>「大学ののの<br>「大学のの<br>「大学のの<br>「大学のの<br>「大学の<br>「大学 | 理規定,法,規約等を理解する<br>伴うこと,その影響が自然や社<br>や社会的貢献にあり,環境への<br>理想的な到達レベルの目安<br>倫理規定などの知識を身につい<br>現実に応用できる。<br>事例を通して、技術者の責任と<br>家でを把握し、主体的に考察であ<br>。<br>社会における技術者の役割を<br>に認識し、責任ある行動を取る<br>とができる。  | 別家子中<br>週時間数<br>(金沢工業大学・別<br>。<br>会に及ぶことを,<br>会に及ぶことを,<br>会に及ぶことを,<br>会に及ぶことを,<br>会に及ぶことを,<br>一様のな到道<br>大、倫理規定なる。<br>を担けてのもっての<br>に認識してい<br>に認識してい<br>に記載についての倫理(<br>会社でで授業を進める)  | 上単位数 学修単専1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2   | を通して学習する<br>技術者としての倫<br>未到達レベ<br>のいてなな<br>技術者のいてなな<br>技術者の中でき<br>かて 1<br>位別の中でき            | 。理的責任を自覚し、表<br>のの目安<br>での知識が十分に身に<br>での対議が十分に身に<br>ではい。<br>での技術者の役割がある。<br>でいない。                                       |  |  |
|---|--|---|---|---|--|--|--|--|--|
| 授業形態 開教担到1.3元ル 評 評 学教 概 授 注授 図 1.3元の  | 上して身に記<br>り役割にはなる。<br>対ク<br>対につける。<br>対ク<br>幸<br>手<br>手<br>手<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た | 講義電子情報通りを期間である。 後期 ではいる では できる  | 考え行動する科学技術者倫理』 中澤 拓哉  理規定, 法, 規約等を理解する (伴うこと, その影響が自然や社 や社会的貢献にあり, 環境への 理想的な到達レベルの目安 倫理規定などの知識を身につい 現実に応用できる。 事例を通して、技術者の責任で 務を把握し、主体的に考察で に認識し、責任ある行動を取 とができる。  社会における技術者の役割を一に認識し、責任ある行動を取る とができる。  (人) | 単位の種別と対象学年<br>対象学年<br>週時間数<br>(金沢工業大学・利<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、<br>のでは、 | 上単位数 学修単専1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2   | 型位: 2  研究所編, 白桃書) を通して学習する倫 を通してとしての倫 未到達レベ いて 倫理規定いな 負いておか (1) はが者の中でき ・ 役割, 使命について理解を深め。 | 。理的責任を自覚し、ま<br>のの目安<br>さの知識が十分に身に<br>い。<br>にうべき義務や責任にて<br>理解していない。<br>の技術者の役割がある。<br>でいない。<br>いて理解する。またに<br>るために、討議を行い |  |  |
| 開設学科開設期 教材担 到 1 2 3 3 え ル 評 評 学教 概 授 意業 アククラー   | 上して身に記<br>り役割にはなる。<br>対ク<br>対につける。<br>対ク<br>幸<br>手<br>手<br>手<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た | 電子情報通り<br>後期<br>『本村 目 で表の向上<br>の情で生活の向上<br>との関係を表の向上<br>は病倫理書ポート<br>上の区分  | 考え行動する科学技術者倫理』 中澤 拓哉  理規定, 法, 規約等を理解する (伴うこと, その影響が自然や社 や社会的貢献にあり, 環境への 理想的な到達レベルの目安 倫理規定などの知識を身につい 現実に応用できる。 事例を通して、技術者の責任で 務を把握し、主体的に考察で に認識し、責任ある行動を取 とができる。  社会における技術者の役割を一に認識し、責任ある行動を取る とができる。  (人) | 対象 が表 に 及び世代 間 標準的 な 記 な で が 事を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・   | 専1 2 2 対学技術応用倫理を   | 研究所編, 白桃書 を通して学習する   を通して学習する   を通して学習する   を通いて   一  | 。理的責任を自覚し、ま<br>のの目安<br>さの知識が十分に身に<br>い。<br>にうべき義務や責任にて<br>理解していない。<br>の技術者の役割がある。<br>でいない。<br>いて理解する。またに<br>るために、討議を行い |  |  |
| 開設期 教材 担到 注 技 持 と 2 3 え ル 評 評 学 教 概 授 注 授 図 注 授 図 が 点 の ティー で か ま | 上して身に記<br>り役割にはなる。<br>対ク<br>対につける。<br>対ク<br>幸<br>手<br>手<br>手<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た | )<br>後期<br>『本村 昌己,『<br>の<br>『本野の向」<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>『大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学ののの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学ののの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学ののの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学ののの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学のの内<br>「大学ののの内<br>「大学のの内<br>「大学ののの内<br>「大学ののの内<br>「大学ののの内<br>「大学ののの内<br>「大学ののの内<br>「大学ののの内<br>「大学ののの<br>「大学ののの<br>「大学のの<br>「大学のの<br>「大学のの<br>「大学の<br>「大学 | 考え行動する科学技術者倫理』 中澤 拓哉  理規定, 法, 規約等を理解する (伴うこと, その影響が自然や社 や社会的貢献にあり, 環境への 理想的な到達レベルの目安 倫理規定などの知識を身につい 現実に応用できる。 事例を通して、技術者の責任で 務を把握し、主体的に考察で に認識し、責任ある行動を取 とができる。  社会における技術者の役割を一に認識し、責任ある行動を取る とができる。  (人) | 別家子中<br>週時間数<br>(金沢工業大学・記<br>る。<br>会に及ぶことを<br>一般<br>一般<br>一般<br>一般<br>一般<br>一般<br>一般<br>一般<br>一般<br>一般<br>一般<br>一般<br>一般  | 2  | を通して学習する<br>技術者としての倫<br>未到達レベ<br>のいてなな<br>技術者のいてなな<br>技術者の中でき<br>かて 1<br>位別の中でき            | 。理的責任を自覚し、ま<br>のの目安<br>さの知識が十分に身に<br>い。<br>にうべき義務や責任にて<br>理解していない。<br>の技術者の役割がある。<br>でいない。<br>いて理解する。またに<br>るために、討議を行い |  |  |
| 教科書/教材担当  | 上して身に記<br>り役割にはなる。<br>対ク<br>対につける。<br>対ク<br>幸<br>手<br>手<br>手<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た | 『本質から、<br>田村 昌己、「<br>一日 で<br>一日 で<br>一日 で<br>一日 で<br>一日 で<br>一日 で<br>一日 で<br>一日 で   | 中澤 拓哉  理規定,法,規約等を理解する (伴うこと,その影響が自然や社 や社会的貢献にあり,環境への 理想的な到達レベルの目安 倫理規定などの知識を身につい 現実に応用できる。 事例を通して、技術者の責任で 務を把握し、主体的に考察である に認識し、責任ある行動を取るとができる。  (本) 面しうる倫理的問題を考察する て、生命,環境,ビジネス,情 員作成資料によって主に講義形 提出も課す。事例研究では,各                               | (金沢工業大学・利益) (金沢工業大学・利益) (金沢工業大学・利益) (金沢工業大学・利益) (金属や世代間倫理) 標準的な到達 (金属・田田 中央   | 東際に生じた事例での確認を通して、 きをがある。   | を通して学習する<br>技術者としての倫<br>未到達レベ<br>のいてなな<br>技術者のいてなな<br>技術者の中でき<br>かて 1<br>位別の中でき            | 。理的責任を自覚し、ま<br>のの目安<br>さの知識が十分に身に<br>い。<br>にうべき義務や責任にて<br>理解していない。<br>の技術者の役割がある。<br>でいない。<br>いて理解する。またに<br>るために、討議を行い |  |  |
| 型当教員<br>到達 技専門術間 1 2 1 2 1 3 3 2 1 3 3 2 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3  | 上して身に記<br>り役割にはなる。<br>対ク<br>対につける。<br>対ク<br>幸<br>手<br>手<br>手<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た<br>た | 田村 昌己,の<br>でき倫<br>信任や義務を<br>の生活の向上<br>技術者理と<br>教科書と<br>教科書と<br>大の区分   | 中澤 拓哉  理規定,法,規約等を理解する (伴うこと,その影響が自然や社 や社会的貢献にあり,環境への 理想的な到達レベルの目安 倫理規定などの知識を身につい 現実に応用できる。 事例を通して、技術者の責任で 務を把握し、主体的に考察である に認識し、責任ある行動を取るとができる。  (本) 面しうる倫理的問題を考察する て、生命,環境,ビジネス,情 員作成資料によって主に講義形 提出も課す。事例研究では,各                               | 会に及ぶことを, 三会に及ぶことを, 三会に及ぶことを, 三会に及ぶことを, 三会に及ぶことを, 三会に及ぶことを, 三会に及ぶことを, 三会になる。   本書のでは、 一会になる。   本書のでは、 一会になる。  | 実際に生じた事例: の確認を通して、: をレベルの目安 ごの知識が身について技術者の責任や記さいる。  D技術者の役割を付いる。 が、者としての責任, の理解を進める。 が、技術者倫理について、 が、技術者倫理について、 が、技術者のである。                                  | を通して学習する<br>技術者としての倫<br>未到達レベ<br>のいてなな<br>技術者のいてなな<br>技術者の中でき<br>かて 1<br>位別の中でき            | 。理的責任を自覚し、ま<br>のの目安<br>さの知識が十分に身に<br>い。<br>にうべき義務や責任にて<br>理解していない。<br>の技術者の役割がある。<br>でいない。<br>いて理解する。またに<br>るために、討議を行い |  |  |
| 到達目標 1. 2 1 1 2 1 2 1 3 3 2 1 2 1 3 3 2 1 3 3 2 1 3 3 2 1 3 3 2 1 3 2 1 3 2 1 3 3 2 1 3 3 2 1 3 3 2 1 3 3 2 1 3 3 2 1 3 3 2 1 3 3 2 1 3 3 3 2 1 3 3 3 3   | 乗命が人々で<br>タイプリナー マイン   | 目との関係<br>技術者が直<br>財務を<br>対の<br>技術者が<br>は<br>対の<br>対の<br>対の<br>対の<br>対の<br>対の<br>対の<br>対の<br>対の<br>対の<br>対の<br>対の<br>対の  | 理規定,法,規約等を理解する。伴うこと,その影響が自然や社会的貢献にあり,環境への理想的な到達レベルの目安倫理規定などの知識を身につい現実に応用できる。事例を通して、技術者の責任で務を把握し、主体的に考察である。社会における技術者の役割をに認識し、責任ある行動を取るとができる。   | 標準的な到達   大  | の確認を通して、<br>を上べルの目安<br>どの知識が身につい<br>で技術者の責任や彰<br>の技術者の役割を付<br>の対しての<br>の対しての<br>である。<br>が者としての<br>である。<br>が、技術者倫理に<br>が、技術者倫理に<br>が、技術者のである。<br>が、技術者のである。 | 技術者としての倫<br>未到達レベ<br>いて 倫理規定なな<br>技術者の印でも<br>社会の中でき<br>役割,使命について理解を深め。                     | 理的責任を目覚し、を<br>いの目安<br>どの知識が十分に身に<br>さっべき義務や責任にて<br>理解していない。<br>の技術者の役割がある<br>ていない。<br>いて理解する。またに<br>るために、討議を行い         |  |  |
| 1. 技術者と2. 技術者と3. 表門織の使身3. る習「リッド」 評価項目1 評価項目2 評価項目3 学教 概要 意業の 点の 原性 アクティニ   | 乗命が人々で<br>タイプリナー マイン   | 国との関係<br>技術者が直<br>用倫理とし<br>教科書と教<br>, レポート  | 理想的な到達レベルの目安<br>倫理規定などの知識を身につい<br>現実に応用できる。<br>事例を通して、技術者の責任<br>務を把握し、主体的に考察です。<br>社会における技術者の役割を一<br>に認識し、責任ある行動を取るとができる。<br>へ<br>面しうる倫理的問題を考察する<br>て、生命、環境、ビジネス、情<br>員作成資料によって主に講義形<br>提出も課す。事例研究では、各  | 標準的な到達   大  | の確認を通して、<br>を上べルの目安<br>どの知識が身につい<br>で技術者の責任や彰<br>の技術者の役割を付<br>の対しての<br>の対しての<br>である。<br>が者としての<br>である。<br>が、技術者倫理に<br>が、技術者倫理に<br>が、技術者のである。<br>が、技術者のである。 | 技術者としての倫<br>未到達レベ<br>いて 倫理規定なな<br>技術者の印でも<br>社会の中でき<br>役割,使命について理解を深め。                     | 理的責任を目覚し、を<br>いの目安<br>どの知識が十分に身に<br>さっべき義務や責任にて<br>理解していない。<br>の技術者の役割がある<br>ていない。<br>いて理解する。またに<br>るために、討議を行い         |  |  |
| 3. 技術の使身 ファイス 技術の でまた できまた できまた できまた できまた できまた できまた できまた  | 乗命が人々で<br>タイプリナー マイン   | 国との関係<br>技術者が直<br>用倫理とし<br>教科書と教<br>, レポート  | 理想的な到達レベルの目安<br>倫理規定などの知識を身につい<br>現実に応用できる。<br>事例を通して、技術者の責任<br>務を把握し、主体的に考察です。<br>社会における技術者の役割を一<br>に認識し、責任ある行動を取るとができる。<br>へ<br>面しうる倫理的問題を考察する<br>て、生命、環境、ビジネス、情<br>員作成資料によって主に講義形<br>提出も課す。事例研究では、各  | 標準的な到達   大  | の確認を通して、<br>を上べルの目安<br>どの知識が身につい<br>で技術者の責任や彰<br>の技術者の役割を付<br>の対しての<br>の対しての<br>である。<br>が者としての<br>である。<br>が、技術者倫理に<br>が、技術者倫理に<br>が、技術者のである。<br>が、技術者のである。 | 技術者としての倫<br>未到達レベ<br>いて 倫理規定なな<br>技術者の印でも<br>社会の中でき<br>役割,使命について理解を深め。                     | 理的責任を目覚し、を<br>いの目安<br>どの知識が十分に身に<br>さっべき義務や責任にて<br>理解していない。<br>の技術者の役割がある<br>ていない。<br>いて理解する。またに<br>るために、討議を行い         |  |  |
| 評価項目1 評価項目2 評価項目3 学科の到道教育方法等 概要 受業の進め方 注意点 授業の属性 ファクティニ   | 達目標項E<br>等<br>5・方法<br>生・履修_  | 技術者が直用倫理とし教科書と教,レポート  | 倫理規定などの知識を身につい現実に応用できる。 事例を通して、技術者の責任と務を把握し、主体的に考察できる。 社会における技術者の役割をに認識し、責任ある行動を取るとができる。  面しうる倫理的問題を考察するて、生命、環境、ビジネス、情景作成資料によって主に講義形提出も課す。事例研究では、各  |   | どの知識が身について技術者の責任や記している。  D技術者の役割を付いる。  が者としての責任、の理解を進める。 が、技術者倫理になが、技術者のである。   | NT 倫理規定なついていな<br>養務 技術者の負いて十分に<br>十分 社会の中でき<br>り理解でき<br>役割,使命につ                            | だの知識が十分に身にい。<br>うべき義務や責任にて理解していない。<br>の技術者の役割があるでいない。<br>いて理解する。また応るために、討議を行い  |  |  |
| 評価項目2<br>評価項目3<br>学科の到道<br>教育方法等<br>概要<br>授業の進め方<br>注意点<br>授業の属性<br>ファクティニ  | 等<br>5・方法<br>生・履修_   | 技術者が直用倫理とし教科書と教,レポート  | 倫理規定などの知識を身につい現実に応用できる。 事例を通して、技術者の責任と務を把握し、主体的に考察できる。 社会における技術者の役割をに認識し、責任ある行動を取るとができる。  面しうる倫理的問題を考察するて、生命、環境、ビジネス、情景作成資料によって主に講義形提出も課す。事例研究では、各  |   | どの知識が身について技術者の責任や記している。  D技術者の役割を付いる。  が者としての責任、の理解を進める。 が、技術者倫理になが、技術者のである。   | NT 倫理規定なついていな<br>養務 技術者の負いて十分に<br>十分 社会の中でき<br>り理解でき<br>役割,使命につ                            | だの知識が十分に身にい。<br>うべき義務や責任にて理解していない。<br>の技術者の役割があるでいない。<br>いて理解する。また応るために、討議を行い  |  |  |
| 評価項目2<br>評価項目3<br>学科の到道<br>教育方法等<br>概要<br>授業の進め方<br>注意点<br>授業の属性<br>ファクティニ  | 等<br>5・方法<br>生・履修_   | 技術者が直用倫理とし教科書と教,レポート  | 現実に応用できる。 事例を通して、技術者の責任と務を把握し、主体的に考察できる。 社会における技術者の役割をに認識し、責任ある行動を取るとができる。  面しうる倫理的問題を考察するて、生命、環境、ビジネス、情景作成資料によって主に講義形提出も課す。事例研究では、各  | いる。   | で技術者の責任やま<br>でいる。<br>の技術者の役割を付いる。<br>が者としての責任、<br>の理解を進める。<br>が、技術者倫理にな<br>がが、技術者倫理にな  | ついていな<br>技術者の負いて十分に<br>十分 社会の中で<br>り理解でき<br>役割,使命につい<br>ついて理解を深め                           | い。<br>!うべき義務や責任にて理解していない。<br>の技術者の役割がある<br>ていない。<br>いて理解する。また成<br>るために、討議を行い   |  |  |
| 評価項目3<br>学科の到道<br>教育方法等<br>既要<br>受業の進め方<br>主意点<br>授業の属性<br>アクティニ  | 等<br>5・方法<br>生・履修_   | 技術者が直用倫理とし教科書と教,レポート  | 務を把握し、主体的に考察できる。 社会における技術者の役割を「に認識し、責任ある行動を取るとができる。  面しうる倫理的問題を考察するて、生命、環境、ビジネス、情員作成資料によって主に講義形提出も課す。事例研究では、各   | を   | でいる。  D技術者の役割を付いる。  が者としての責任、  D理解を進める。  が、技術者倫理に  分析し、発表する。   | いて十分に<br>社会の中で<br>り理解でき<br>役割,使命につい<br>ついて理解を深め  | 理解していない。 の技術者の役割がある ていない。  いて理解する。また成るために、討議を行い  |  |  |
| 学科の到道教育方法等<br>既要<br>受業の進め方<br>主意点<br>受業の属性<br>アクティン   | 等<br>5・方法<br>生・履修_   | 技術者が直用倫理とし教科書と教,レポート  | に認識し、責任ある行動を取るとができる。  (本)  面しうる倫理的問題を考察する て,生命,環境,ビジネス,情 員作成資料によって主に講義形 提出も課す。事例研究では,各  | るこ に認識してい<br>に認識してい<br>っことを通じて,技行<br>報についての倫理の<br>式で授業を進めるが<br>自が事例を調査, 2   | Nる。<br>析者としての責任,<br>D理解を進める。<br>が,技術者倫理に <sup>つ</sup><br>分析し,発表する。   | り理解でき<br>役割, 使命につい<br>ついて理解を深め   | ていない。<br>いて理解する。まただ<br>るために, 討議を行い   |  |  |
| 教育方法等   | 等<br>5・方法<br>生・履修_   | 技術者が直用倫理とし教科書と教,レポート  | 面しうる倫理的問題を考察する<br>て,生命,環境,ビジネス,情<br>員作成資料によって主に講義形<br>提出も課す。事例研究では,各  | 式で授業を進めるが<br>自が事例を調査, 2   | が,技術者倫理に<br>分析し,発表する。  | ついて理解を深め   | るために,討議を行い   |  |  |
| 教育方法等   | 等<br>5・方法<br>生・履修_   | 技術者が直用倫理とし教科書と教,レポート  | 面しうる倫理的問題を考察する<br>て,生命,環境,ビジネス,情<br>員作成資料によって主に講義形<br>提出も課す。事例研究では,各  | 式で授業を進めるが<br>自が事例を調査, 2   | が,技術者倫理に<br>分析し,発表する。  | ついて理解を深め   | るために,討議を行い   |  |  |
| 概要<br>受業の進め方<br>主意点<br>受業の属性<br>② アクティニ   | 方・方法<br>生・履修 <sub>-</sub>  | 教科書と教<br>, レポート<br>上の区分   | 員作成資料によって主に講義形<br>提出も課す。事例研究では,各  | 式で授業を進めるが<br>自が事例を調査, 2   | が,技術者倫理に<br>分析し,発表する。  | ついて理解を深め   | るために,討議を行い   |  |  |
| 受業の進め方<br>主意点<br>受業の属性<br>図 アクティ  | 生・履修」  | 教科書と教<br>, レポート<br>上の区分   | 員作成資料によって主に講義形<br>提出も課す。事例研究では,各  | 式で授業を進めるが<br>自が事例を調査, 2   | が,技術者倫理に<br>分析し,発表する。  | ついて理解を深め   | るために,討議を行い   |  |  |
| 注意点<br>受業の属性<br>3 アクティ:   | 生・履修」  | , レポート<br> <br> <br> <br> 上の区分  | 提出も課す。事例研究では,各  | ·自が事例を調査, 2   | 分析し,発表する。  | ,  |  |  |  |
| 受業の属性   |  | 上の区分  |   |   |  |  | 験のある教員による技   |  |  |
| 受業の属性   |  |   | □ ICT 利用  | □ 遠隔授業  | 対応   | □ 実務経験   | 験のある教員による摂   |  |  |
| ] アクティ:   |  |   | □ ICT 利用  | □ 遠隔授業  | 対応   | □ 実務経  | 験のある教員による授   |  |  |
|   |  |   |   | , =   |  |  |  |  |  |
| 受業計画  |  |   |   |   |  |  |  |  |  |
|   |  |   |   |   |  |  |  |  |  |
|   | ì  | <b></b> 担   | 業内容   |   | 週ごとの到達目標   |  |  |  |  |
|   | _1   | .週 科  | 学技術史  |   | 科学技術の歴   | 科学技術の歴史について理解する。 A1:1-4  |  |  |  |
|   | 2  | 週倫  | <b>津とは何か</b>  |   |  | 倫理理論の学習を通じて、倫理とは何かを理解する。   |  |  |  |
|   | -  |   | <br>が者と倫理   |   | A1:1-4   技術者と倫理の関わりについて理解する。 A1:1-4  |  |  |  |  |
|   | 3rdQ   |   |   |   | 技術者と倫理の関わりについて理解する。AI:1-4   倫理綱領の学習を通じて、技術者の社会的責任につい   |  |  |  |  |
| ٦   |  |   | <b>理綱領</b>  | て理解する。  | て理解する。A2:1-4   |  |  |  |  |
|   |  |   | 業の社会的責任   |   | 企業の社会的責任について理解する。A2:1-2  |  |  |  |  |
|   |  | <b>週</b> 研  | T究開発の倫理 Transman  |   | 一般的な研究倫理について理解する。A2:1-4  |  |  |  |  |
|   | 7  | '週 技  | が開発の責任  |   | 製造物責任,安全設計,施工・工程管理について理)<br>する。A2:1-4  |  |  |  |  |
|   | 8  | 週   | J益の衝突   | 内部告発や利<br>A2:1-4  |  |  |  |  |  |
| <b></b>   | g  | 週事  | 例演習 1   | 事例演習を通プローチの仕  | 事例演習を通じて、技術者が抱える倫理的問題へのプローチの仕方を理解する。A3:1-4   |  |  |  |  |
|   | 1  | .0週 事   | 例演習 2   | プローチの仕  | 事例演習を通じて、技術者が抱える倫理的問題への<br>プローチの仕方を理解する。A3:1-4   |  |  |  |  |
|   | 1  | .1週 事   | 站調査発表 1   | A3:1-4  |  |  |  |  |  |
| 4   | lthQ 1   | .2週 事   | 故調査発表 2   |   | A3:1-4   |  |  |  |  |
|   | 1  | .3週 事   | 故調査発表 3   | A3:1-4  |  |  |  |  |  |
|   | 1  | .4週 事   | 故調査発表 4   | A3:1-4  |  |  |  |  |  |
|   | <b>⊢</b>   |   | 並調査発表 5   |   | A3:1-4   |  |  |  |  |
|   |  |   | 末試験   |   | 理解度を判定   | 理解度を判定する。  |  |  |  |
|   | アカリキュ  |   | 学習内容と到達目標   |   |  |  | ,  |  |  |
| <u>}類</u>   |  | 分野  | 学習内容 学習内容の到   | 達目標   |  | 至  | 到達レベル 授業週  |  |  |
| 評価割合  |  |   | 1   |   |  |  |  |  |  |
|   |  |   | 発表 相互評価   | 態度  | ポートフォ!   |  | 合計   |  |  |
| 総合評価割合  | 試験<br>3 50   |   | 20 10   | 10  | 20   | 0  | 100  |  |  |

| 専門的能力   | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
|---------|---|---|---|---|---|---|---|
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |